

第1学年 家庭科学習指導案

1 題材名 C (1) 「衣生活と自立」 ～必要な衣服を自分で選択しよう～

2 題材の目標

- 衣服の社会生活上の働きを知り、目的に応じた衣服の着方や個性を生かした着方を考え、工夫することができる。
- 衣服計画を立て、手持ちの衣服を見直し、着ていない衣服の活用方法や必要な衣服の入手方法を考え、工夫することができる。
- 既製服の表示を正しく読み取り、自分にとって適切な既製服を選ぶことができる。
- 資源や環境に配慮した衣生活について、考えをもつことができる。

3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ○ 衣服の働きに関心を持ち、目的に応じた着方や個性を生かした着方について考えようとしている。 ○ 衣生活と資源や環境、消費とのかかわりについて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着ていない衣服の活用方法や必要な衣服の入手方法を考え、工夫している。 ○ 目的に応じた既製服の適切な選択について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既製服を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。 ○ 衣服の手入れに必要な技能（まつり縫い・スナップ付け・アイロン・洗濯）を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 衣服の社会生活上の働きや目的に応じた着方、個性を生かした着方について理解している。 ○ 既製服の表示について理解している。

4 題材と指導の構想

(1) 題材と生徒

本題材は、学習指導要領の下記の内容を受けて設定した。

<p>C 衣生活・住生活と自立</p> <p>(1) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。</p> <p>ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。</p> <p>イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。</p>

本題材では、生徒が自分の衣生活について主体的に考えたり、取り組んだりして生活における実践力につなげることができることを目指す。

生徒にとって、衣生活は毎日の活動であり、また小学校でも学習しており、学習の大まかなイメージはできている。事前アンケートの結果では、衣生活にかかわる一連の活動（入手・着用・手入れ・点検、計画・収納・再利用、処分）についても、「自分でできている」と回答した生徒が約半数いた。また、生徒の衣生活にかかわる一番の関心事項は、「着ること」であるように感じる。しかし、好みの服装を「着ること」が最優先になってしまっているため、社会生活上の配慮や寒暖の調節など、衣服の役割に注目できている生徒は少ない。

そこで、この題材では、生徒一人一人が、自分の衣生活を自分の好みだけでなく、社会生活上の機能から衣服の着用の仕方や個性を生かす着用の工夫を考えさせ、衣生活の自立を促していきたい。

そして、衣服の着方について「毎日やっているから、なんとなくできている」から「自信をもって自分でできている」といった衣生活の自立を目指したい。

(2) 指導の構想

学習を通して、衣服の機能について関心と理解を深め、社会生活とのかかわりを意識した衣生活を構築する力を身に付けさせたい。本題材では、①衣服が人に与える印象 ②サイズ表示・取り扱い 絵表示・組成表示の読み方 ③衣服の手入れ ④衣服と快適性 ⑤衣服の社会生活上の働き の順に学習を行う。

また、教科指導における自己の研修テーマを「生徒が問いをもつて活動に取り組める授業展開の工夫」と設定した。教室での学習場面において、自分の考えをもつことはできても、それを積極的に発表したり、仲間の意見を聞き、自分の考えを再考したりする活動をさせることができずにいた。その理由としては、生徒が仲間との意見交流や協力し合うことに必要性を感じない課題や発問だったことに、原因があった。そこで、生徒が意欲的に教材や仲間とかかわり意見を交流する必要がある授業展開を構成したい。そのために、次の5つのステップを意識する。①教材に対しての自分の考えをまとめる。②仲間の考えを知る。③検証のための方策を検討し、実証する。④結果を自分たちの言葉で整理し、クラス全体で共有するために発表を行う。⑤学習したことを自分のこととして振り返る。

仲間と協力して見つけ出した解決法は、自分や家族の生活を見つめ直し、実生活で生かす力となると考え、このような指導を構想した。

5 題材の指導計画（全13時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動（・）	評 価				
		関	創	技	知	評価規準
1	○目的に応じた既製の適切な選択方法について考え、工夫できる。 ・衣服の着方によって、人に与える印象について考える。 ・衣服の柄や色の組み合わせから、自分らしさを考えた着方を工夫する。	○	○			・目的に応じた着方や個性を生かした着方について自分なりの工夫をしようとしている。
2	○既製服に関心をもち、表示について理解する。 ・サイズ表示、取り扱い絵表示、組成表示の読み方を知る。 ・さまざまな布の特徴を理解する。 ・手持ちの衣服調べをする。	○			○	・既製の表示を正しく読み取っている。 ・組成表示に着目し、衣服の用途との関係を考えようとしている。
3 4 5 6 7 8 9 10	○衣服の手入れに必要な知識・技能を身に付けることができる。 ・ブックカバー製作（まつりぬい、ミシン、スナップ付け、アイロンがけ実習）。 ・洗濯機と洗剤の使い方をまとめる。			○	○	・組成表示に着目して、衣服の特徴や手入れ方法について説明している。 ・洗濯機の特徴や洗剤の種類、表示について説明できる。 ・まつりぬいやミシン、スナップ付け、アイロンがけができる。
11 12 本時	○季節や環境に応じた快適な着方が分かり、手持ちの衣服の着方を工夫することができる。 ・重ね着の実験を通して、屋内外の暖かい着方を理解する。 ・実験結果をもとに、手持ちの衣服の活用の仕方を考える。		○		○	・屋内外の暖かい衣服の着方を、実験を通して判断しようとしている。 ・実験結果をもとに、手持ちの衣服の活用・工夫について根拠をもつて説明しようとしている。
13	○衣服の役割を知り、必要な衣服を自分で選択できる。	○			○	・衣服の社会生活とのかかわりや、TPOに応じた

・衣服の社会生活上の機能を理解する。 ・TPOについてまとめる。					着方に関心をもっている。
-------------------------------------	--	--	--	--	--------------

6 本時の学習（全13時間、本時11、12時間目）

(1) 本時のねらい

実験を通して、屋内外の暖かい衣服の着方を理解し、手持ちの衣服の活用・工夫について根拠をもって説明することができる。

(2) 本時の構想

本時は、仲間と協力して実験をすることを通して、寒暖に対応した着方について考える授業である。

課題

生徒自ら問いをもたせるために、これまでの生活の中で冬の衣服の着方について振り返らせた上で、『本当にそれが一番快適なのか、またもっと快適な着方はあるのか』と、生徒に課題を投げかける。生徒に、これまでの生活経験が最適だったのか、それとも改善の余地があるのか等、知りたい、確かめたいという意欲を高めさせたい。

ステップ1：教材に対しての自分の考えをまとめる。

綿さらし、毛+アクリル混紡ニット、ポリエステル生地、ポリエステルジャージの4種類の布を用意した。綿さらしは下着、ニットはセーターやカーディガン、ポリエステル生地はウインドブレーカー、ポリエステルジャージは体操着を想定した。

これらの4種類の布について、冬の屋内外における暖かい着方をこれまでの経験をもとに予想し、ワークシートに記入する。

ステップ2：仲間の考えを知る。

小グループの仲間と予想を発表し合い、互いの考えを知る。また、検証実験のための布を相談して選択する。

ステップ3：検証のための方策を検討し、実証する。

ステップ2で相談した冬の屋内外における衣服の組み合わせにおいて検証実験を行い、結果を整理しグラフにまとめる。

ステップ4：結果を自分たちの言葉で整理し、クラス全体で共有するために、発表活動を行う。

ステップ3のグラフをもとに、結果を自分たちの言葉で整理し、冬の屋内外における暖かい着方について発表する。結果をクラスでまとめ、発表活動を通して布の通気性・保温性による衣服の快適な着方について理解する。

ステップ5：学習したことを自分のこととして振り返る。

暖かさを保つための衣服の着方について、学習したことをふまえて自分なりの着方を見つける。デザインだけではなく、布の組成表示や素材に注目して衣服の選択ができる。

学習成果の見取りについて

本時で使用するワークシートの記述をもとに、以下の2点において見取りを行う。

- ・宿題となっていた「衣服調べワークシート」をもとに、手持ちの衣服をこれからの季節に計画的に活用できているか。
- ・新たに入手を考えるときに、布の特徴を配慮した入手計画を立てられるか。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと生徒の反応	指導上の留意点と評価
○前回の授業の確認をする。 ○これからの季節に適した衣服を挙げる。	T：衣服調べのワークシートを確認する。 これからどんどん寒くなりますね。これまでどうやって冬の寒さを乗り越えてきましたか？また、どうしてそのようにしてきたのですか？ S：重ね着をする。	○日々の衣服について振り返らせ、意見を板書でまとめ、衣服の選び方や重ね方への関心を高めるようにする。

	<p>S：厚い服を着る。 S：コートを着ると暖かいから。 S：冬服だから，セーターを着る。 S：なんとなく着る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>厚い方が，暖かいと感じているみたいですね。でも，運動部の人にはこんなに着込んでしまっただけでは，動きが悪くなりますね。どんな着方をしていますか？</p> </div> <p>S：体操着の上にウインドブレーカーを着ている。 S：体操着の中に薄いものを重ねている。</p>	
<p>ステップ1と2 ○暖かさを保つための着方を考える。 (自分→仲間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>屋内や屋外で，これまで暖かいと思っていた衣服の着方は，本当に自分たちが思っている通りに暖かいのでしょうか？またもっと暖かい着方はあるのでしょうか？確かめてみましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>確かめる方法を説明します。ワークシートを見てください。確かめるために使う道具は，次の図の通り，ビーカー，温度計，輪ゴムがそれぞれ8個，布が4種類，湯です。 ビーカーの中に湯を入れ，その周りに布を巻きつけます。布は，2枚まで重ねてもよいです。 強風+低温の屋外，低温の屋内を想定して，ビーカーの中の湯の温度が下がりにくく暖かさを保つ着方をそれぞれ3パターンずつ予想し，ワークシートに記入しましょう。</p> </div> <p>S：綿さらしは，薄いから寒い。 S：毛ニットは，冬の定番だから暖かい。 S：ナイロンとポリエステル混紡は，冷たい感じがする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の予想ができれば，グループで発表し合ひましょう。そして，グループで行う実験で使用する布のパターンを決定しましょう。</p> </div> <p>S：下着は重要だから，綿さらしをすべてのパターンに使おう。 S：屋外でも屋内でも，毛ニットを2枚重ねるのが一番暖かい。 S：屋外では，外側にポリエステル生地が本当に暖かいから，確かめたい。</p>	<p>○ワークシートを配る方法を考える。自分と仲間を交わすために，さっさと考えを交流させる。 ○温度低下の測定方法： ・実験用具 ・ビーカーと温度計（各8個），湯，布（綿さらし，毛ニット，ポリエステル生地，ポリエステル生地） ・布を巻くビーカーに巻き付けを想定し，それぞれ3パターンの組み合わせを検証する。 ・それぞれのビーカーで，布は2枚まで重ねてもよい。 ・ビーカーに湯を入れ，3分ごとに，中の湯の温度を，15分間測定する。</p>
<p>ステップ3 ○検証する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これから実験をします。道具の準備を行いましょう。温度の低下を比較するために，それぞれ布を巻かないビーカーも用意してください。屋外用のビーカーは，扇風機の前に運んでください。3分ごとに合図をしますので，温度の測定と記録を行います。それでは始めます。</p> </div> <p>S：なにも巻かないビーカーは，ものすごく温度が下がる。 S：綿さらしは，薄いのに意外と暖かい。 S：屋外だと，毛ニットは温度が下がる。</p>	<p>○検証の方法を全体で確認し，実験を開始するよう指示する。 ○3分ごとの時間の経過を知らせ，記録を取るよう指示する。</p>
<p>ステップ4 ○結果を整理する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>以上で実験を終わります。道具の片づけが終わったら，測定結果を各グループで見本の通りにグラフに表してください。</p> </div>	<p>○グラフの書き方を説明する。</p>

<p>ステップ 5 ○振り返り</p>	<p>S: スタートを 0℃にして、温度の低下をマイナスのグラフで表すと、比較しやすい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実験の結果から、これまで暖かいと思っていた衣服の着方はどうだったか、また屋内・屋外のそれぞれの暖かい着方はどうなのか、自分たちの言葉でまとめましょう。</p> </div> <p>S: 低温の屋内では、毛ニットを着用すると温度低下が少ない。 S: 綿さらしは意外と暖かく、下着として着用すると衛生面でも暖かさでも効果がある。 S: 屋外では、毛よりポリエステル生地が暖かいのは、風を通さないからだ。 S: 屋内で暖かい衣服が、屋外でも暖かいとは限らない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実験の結果から屋内・屋外、それぞれどんな衣服の着方をすると暖かいことが分かりますか。それぞれのグループの発表から、共通点を見つけましょう。</p> </div> <p>S: 屋外では、冷たい風を通しにくいウインドブレーカーのような素材の衣服を一番外側に着ると暖かさを保てる。 S: 屋内では、体操着だけで寒い時は、中に下着を着ると暖かい。 S: 屋内では暖かいセーターも、屋外では風を通してしまい、暖かさを保てない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の手持ちの衣服の中で、冬を乗り切るために、どのように工夫できますか。また、新たに入手が必要な場合は、どのような配慮が必要ですか。</p> </div> <p>S: 綿100%のTシャツは、夏の衣服だと思っていたけど、古くなったものは下着として使えそうだ。屋内でも屋外でも、暖かさを保つ、空気の間層を作るために必要だから。 S: コートを購入するときは、外側がポリエステル素材で分厚いダウンがいいかもしれない。屋外では、冷たい風を防いでくれるから。 S: 体操着の上にカーディガンを着ても、屋外では暖かく感じない理由が分かった。着方を逆にすることで、暖かさを保つことができる。</p>	<p>○机間指導をして、代表グループに発表を指示する。</p> <p>○生徒の発表を板書して整理し、屋内では空気の層を多く含んだ厚手の衣服を、屋外では風を通しにくい材質の衣服を、それぞれ一番上に重ねることが暖かさを保つ着方になることをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】 暖かさを保つ衣服の着方について、実験結果をもとに自分の言葉でまとめることができる。 【評価方法】 ワークシート・授業観察</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】 衣服を選択するとき組成表示や材質に配慮している。 【評価方法】 ワークシート・授業観察</p> </div>
-------------------------	--	---

(4) 本時の評価規準

- B 屋内外の暖かい衣服の着方について、厚手の衣服の上に、風を通さない布地の衣服を重ねるとよいことを、ワークシートにまとめている。 (知識・理解)
- B 実験結果をもとに手持ちの衣服の活用・工夫について、実際の場面をあげ、本時の学習を根拠にあげてワークシートにまとめている。 (工夫・創造)